

紅毛

京都大学広報誌 ● 第4号 くれなゐもゆる

KYOTO
UNIVERSITY
MAGAZINE



佐藤 一夫

フィールド科学教育研究センター
舞鶴水産実験所
文部科学技官

一九八七（昭和六十二）年二月、年度途中で採用された佐藤一夫技官の前職は、大きな商船会社の船員だった。宮津にある水産高校を卒業してから約二十年間、外国航路の船乗りをしていた。穀物、鉄鉱石、スクラップなどを運ぶ貨物船や石油タンカーに乗り組み、世界の海を巡った。

「アメリカの太平洋岸および大西洋岸、サウジアラビアなどペルシャ湾沿岸諸国、地中海沿岸、ヨーロッパ、黒海周辺、南アフリカ、オーストラリアなどほとんど世界中回っています。しかし結局、南太平洋、ハワイ、ニュージーランドなどには行けなかった。」

佐藤技官が船に乗りたいたと思つたきっかけが、少年のころにテレビで見た南太平洋のドキュメンタリー・シリーズやエルビス・プレスリーのハワイを舞台にした映画だったというのだから、皮肉なものである。

外国航路の船員から 小型船舶の船長へ

それにしても、どうして商船会社の船員から京都大学へ……と思うのがふつうだろう。「実は勤め先の景気が悪くなつ

たんです。それで次の就職口を探しているときに、たまたま水産実験所の話があり、試験を受けたら、運良く通った。」

実験所は、一九七二年四月に農学部水産学科が京都市内の京大構内に移転した跡地を転用して同年五月に設置されたもので、海の生物と環境に関する多彩な研究を行なっている。そして、海洋研究に欠かせないのが研究調査船の存在だ。

佐藤技官の採用が二月という変則的なものになっているのは、彼の前の「船長」が急死したからだった。実験所で沿岸資源管理学分野を担当する上野正博助手によると、「船長がいないと調査船の運行ができせんから、慌てて募集をした」というような状況だった。

ただ、外国航路の船員に比べると破格に安い給料で実験所に就職することを決心させたいちばん大きな理由は、母親が病弱だったため、舞鶴を離れなくなつたからとのこと。

しかし、考えてみると、本当によい選択をしたと思つています。毎日、自然を間近にして仕事ができるし、商船の場合はビジネスですので、たった一日運

行できなくても膨大な損失になりますから、コスト第一になりがちです。それに比べて研究調査船は、安全運行第一ですから、精神的には楽ですね」

ホームページづくりも 仕事のうち

佐藤技官の具体的な職務内容はつぎのようなものだ。

- (一) 研究調査船「緑洋丸（十八トン）」の管理運行
- (二) その他の船舶と関連施設および観測機器の保守管理
- (三) 学生に対する海洋観測作業の指導
- (四) 気象・海象観測とデータ解析業務
- (五) 水産実験所のホームページに関する業務
- (六) 各種刊行物の整理業務

メインはもちろん緑洋丸の管理運行業務である。「調査する場所まで船を出して、標本を採集すると、観測すると、観測するとかするわけですね。それ以外は船舶の管理ですね。故障したところがあれば直し、故障しそうなところは前もって直しておく。しかし、いつもその仕事があるわけではないので、他の日は毎日十時に沿岸定地観測



として、水温、気温、天候、降水量などを観測します。また、「ホームページに関する業務」というのもあるが、実は実験所のホームページは佐藤技

笑うと表情が一変する。
54歳の男性を形容するのに相応しくないかもしれないが、キューピーさんのような無邪気でかわいらしい笑顔だ。
佐藤技官の職場を正式名で言うと、
京都大学フィールド科学教育研究センター
水域フィールド管理部門舞鶴水産実験所ということになる。
学生や教官は彼のことを「船長！」と呼ぶ。

官が最初からつくつたものである。京大の出先機関でまだホームページを持っていたところが少なかった時代に、上野助手に「京都にサーバーがあるから、それにうちのホームページをのせたらどうやろ」と言われ、他の業務が暇なときなどに、いろいろな人に聞いたり、こつこつ自分で本を読んで勉強しながらつくつていった。

「ホームページをつくる前に魚類標本の標本台帳のデータベースづくりなど、いろんなことをやつてもらっていたので、その流れの中で、定地観測の水温データなど諸情報を公開するのにホームページがいちばんいいだろうということ、やつてもらったんです」と上野助手。実験所に就職するまで、コンピュータに本格的に触つたことがなかった団塊の世代の佐藤技官の頭は、まだまだ柔らかそうだった。

最後に、「実験所をささえていると実感するときは？」と聞くと、「船長に手伝わってもらつて採集した標本で書いた論文です」とか、「集めてもらったデータを使って学会で発表しました」と学生が言ってくる」ときの答えが返ってきた。

研究調査船「緑洋丸」



■さとう かずお
1967年 京都府立水産高等学校卒業
三光汽船株式会社入社
1986年 同退社
1987年 京都大学農学部附属水産実験所技術職員
2003年 フィールド科学教育研究センター管理技術部
水域フィールド管理部門舞鶴水産実験所管理技術班長